

**製品名: WWOX (リン酸化 Tyr33) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05635**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

**抗原情報**

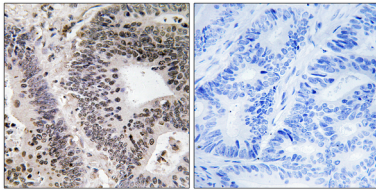
遺伝子名	WWOX
別名	WWOX; FOR; WOX1; WW domain-containing oxidoreductase; Fragile site FRA16D oxidoreductase
遺伝子 ID	51741.0
SwissProt ID	Q96KM3
免疫原	抗血清は、ヒト WWOX 由来の Tyr33 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 18-67

**背景**

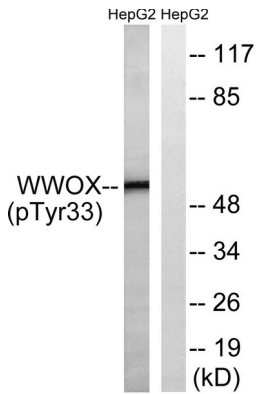
疾患:WVOX の欠陥は、食道扁平上皮癌 (ESCC) [MIM:133239]に関連している可能性があります。疾患:WVOX の欠陥は、いくつかの癌の種類に関連している可能性があります。この遺伝子は、癌で頻繁に変化する 2 番目に多い染色体脆弱部位 (FRA16D) にまたがっています。いくつかのアイソフォームの発現の変化は、癌と関連しています。しかし、WVOX の変化が癌の発生に直接関係しているかどうか、または二次的な影響に対応しているかどうかはまだ不明です。ドメイン:WW 1 ドメインは、TP53、おそらく TP73、TFAP2C、LITAF、および WBP1 との相互作用を媒介します。機能:おそらく酸化還元酵素であり、腫瘍抑制因子として機能し、アポトーシスに役割を果たします。TP53/p53 と相乗的に機能し、遺伝毒性ストレス誘発性細胞死を制御する可能性があります。また、腫瘍壊死因子 (TNF) を介した細胞死にも関与している可能性があります。PTM: 遺伝毒性ストレスによりリン酸化されます。Tyr-33 のリン酸化は、TP53、TP73、および MAPK8 との相互作用を制御します。また、アポトーシス促進活性も制御する可能性があります。類似性: 短鎖脱水素酵素 / 還元酵素 (SDR) ファミリーに属します。類似性: 2 つの WW ドメインを含みます。細胞内局在: ミトコンドリアに部分的に局在します。遺伝毒性ストレスまたは TNF 刺激により核に移行します (類似性による)。アイソフォーム 5 およびアイソフォーム 6 は核に局在する可能性があります。サブユニット: TP53、TP73/p73、および MAPK8 と相互作用します。MAPT/TAU と相互作用しません (相同性による)。TP53 および MDM2 と三元複合体を形成します。ERBB4、LITAF、WBP1 と相互作用します。COTE1/C1orf2 および SCOTIN と相互作用する可能性があります。組織特異性: 広く発現しています。精巣、前立腺、卵巣で強く発現しています。がん細胞株で過剰発現しています。アイソフォーム 5 およびアイソフォーム 6 は、腫瘍細胞株でのみ発現している可能性があります。疾患: WVOX の欠陥は、食道扁平上皮がん (ESCC) [MIM:133239]に関係している可能性があります。疾患: WVOX の欠陥は、いくつかのがん種に関係している可能性があります。この遺伝子は、がんにおいて頻繁に変化する 2 番目に多い染色体脆弱部位 (FRA16D) にまたがっています。発現の変化および一部のアイソフォームの発現は、がんに関連しています。しかし、WVOX の変化が癌の発生に直接関係しているのか、それとも二次的な影響なのかはまだ明らかではありません。ドメイン: WW 1 ドメインは TP53、そしておそらく TP73、TFAP2C、LITAF、WBP1 との相互作用を媒介します。機能: おそらくは、腫瘍抑制因子として作用し、アポトーシスに関与する酸化還元酵素です。TP53/p53 と相乗的に機能し、遺伝毒性ストレス誘発性の細胞死を制御します。また、腫瘍壊死因子 (TNF) を介した細胞死にも関与している可能性があります。PTM: 遺伝毒性ストレスによりリン酸化されます。Tyr-33 のリン酸化は、TP53、TP73、MAPK8 との相互作用を制御します。アポトーシス促進活性も制御している可能性があります。類似性:短鎖脱水素酵素/還元酵素 (SDR) ファミリーに属します。類似性:2 つの WW ドメインを含みます。細胞内局在:ミトコンドリアに部分的に局在します。遺伝毒性ストレスまたは TNF 刺激により核に移行します (類似性による)。アイソフォーム 5 およびアイソフォーム 6 は核に局在する可能性があります。サブユニット:TP53、TP73/p73、MAPK8 と相互作用します。MAPT/TAU と相互作用しません (類似性による)。TP53 および MDM2 と三元複合体を形成します。ERBB4、LITAF、WBP1 と相互作用します。COTE1/C1orf2 および SCOTIN と相互作用する可能性があります。組織特異性:広く発現しています。精巣、前立腺、および卵巣で強く発現しています。アイソフォーム 5 およびアイソフォーム 6 は腫瘍細胞株でのみ発現する可能性があります。

## 研究分野

## 画像データ



WWOX (リン酸化 Tyr33) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PMA 125 ng/ml 30分処理した HepG2 細胞ライセートの WWOX (リン酸化 Tyr33) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。